

## ご使用上の注意

使用状況や取付条件を確認し、カタログ及び承認仕様書記載の定格範囲内でご使用ください。  
適切な選定・使用をされない場合、発煙・発火に至ることがあります。

### 使用環境

コンデンサ端子面に水や塵埃が溜まらないように配慮ください。漏電や腐食の原因になります。  
結露を誘発する高湿度環境下では、コンデンサを使用しないでください。

### 使用温度範囲

- コンデンサの寿命は、使用温度条件により大きく影響を受けます。従って必ず製品ごとに定めた最低・最高許容温度の範囲内で、ご使用ください。なお、コンデンサの使用温度は、次のようになります。  
使用温度(コンデンサ表面温度) = 周囲温度 + 自己発熱(高周波・交流・リップル電流等による)
- 実機にてコンデンサの自己発熱による温度上昇値が仕様範囲内に入っていることをご確認ください。  
自己発熱によるコンデンサ温度上昇は指定値内でご使用頂く必要があります。  
温度上昇は動作温度によって変わることにご留意ください。
- 保存温度及び動作温度の区別がある場合には所定の指示に従ってください。
- 指定温度範囲内にあっても、急激な温度変化の下でコンデンサを使用しないでください。

### 洗 浄

洗浄機を用いて基板などを洗浄する場合は、アルコール系のような影響の少ない洗浄剤を使用し、できるだけ速やかに洗浄、及び洗浄後の乾燥(使用温度以下)を行ってください。また、これ以外の溶剤を使用する場合は、ご相談ください。

### 保管場所

- 室内で温度 $-10^{\circ}\text{C}$ ~ $40^{\circ}\text{C}$ 、相対湿度75%以下で保管してください。急激な温度変化、直射日光、腐食性ガス(硫化水素、亜硫酸、塩素、アンモニアなど)のある雰囲気保管しないでください。
- 荷重を加えないよう、梱包状態のまま保管ください。製品個々の特別な保管を要求されているものは、これを守ってください。

### はんだ付け

- フローはんだ付け推奨条件(図1)  
推奨はんだ組成: Sn96.5%・Ag3.0%・Cu0.5%  
推奨フロー条件: 予熱… $110^{\circ}\text{C}$ 以下 60秒以内  
浸漬… $260^{\circ}\text{C}$ 以下 10秒以内
- 手はんだ付け推奨条件  
推奨はんだ組成: Sn96.5%・Ag3.0%・Cu0.5%  
推奨条件:  $380^{\circ}\text{C}$ 以下 3秒以内

※上記温度プロファイルを越える条件の場合、製品の特性に影響を及ぼす可能性がございます。従いまして、上記推奨温度プロファイル内でのご使用をお願いします。

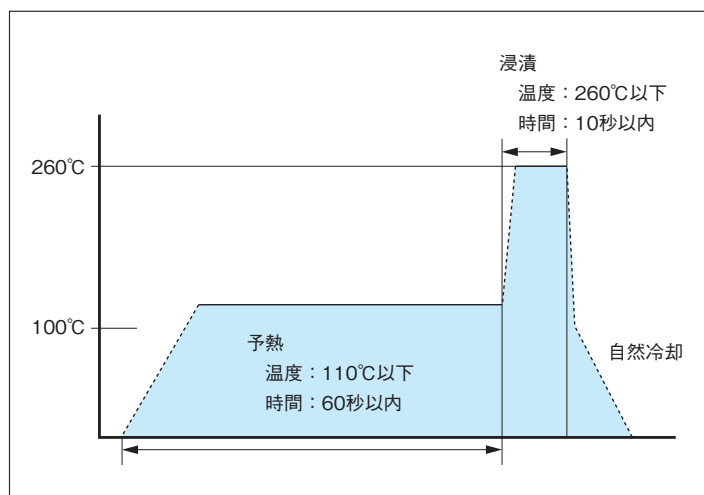


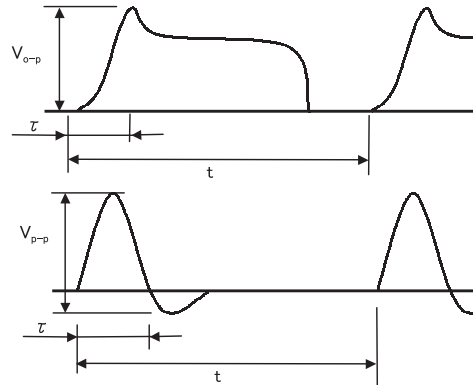
図1

## 使用電圧

- コンデンサに印加される電圧は、特に言及がない限りは、サージ又はリップルのピーク値が定格電圧以下となるようにご使用ください。
- コンデンサを最大動作温度以上で使用する場合は、動作電圧は指定のディレーティング率に従ってディレーティングしてご使用ください。
- 複数のコンデンサを並列で接続される場合は、電流バランスを考慮し、同じシリーズの同じ定格のコンデンサをご使用ください。
- 複数のコンデンサを直列で接続される場合は、電圧バランスを考慮し、同じシリーズの同じ定格のコンデンサをご使用ください。

### 許容パルス電圧

電圧パルス波： $V_{o-p}$  (非反転時) =  $V_{p-p}$  (反転時) = 定格電圧以下のこと



パルス電圧のピーク値が定格電圧以下でも使用温度範囲・許容実効電流値・許容パルス電流値がカタログの値を超えないようにご確認の上ご使用ください。

## 取付け

- コンデンサのリード線端子をプリント基板などに挿入する場合は、規定以上の引張りやねじりがかからないようにしてください。特に、基板挿入の場合は、外装樹脂にクラックが発生しないように挿入してください。クラック発生が避けられない場合は、フォーミング品を選定ください。
- 形状の大きなコンデンサや振動を受ける機器にコンデンサを取り付ける場合、コンデンサ本体を取付具やコンデンサに影響のない樹脂などにより固定してください。
- コンデンサ外装が装置の金属部または他の部品の活電部と接触しないようにしてください。
- コンデンサと配線基板の熱膨張係数に大きな差がある場合には不具合に至る場合がありますので、ご相談ください。

## 保管

- 1年以上保管されたものは、特性及びリード線のはんだ付け性を確認の上ご使用ください。
- コンデンサ本体に誘電体まで達する傷がつきますと、誘電体フィルムが絶縁破壊を起こし、コンデンサが破壊しますので、コンデンサ本体に傷がつかないように取扱ってください。
- リード線に過度の力を加えないでください。

## 取扱い

- 通電中のコンデンサに直接触れないでください。通電中のコンデンサの端子間を、導電体で短絡させないでください。
- 通電後のコンデンサの端子に触れる際には、必ず放電抵抗で放電させてから行ってください。感電の恐れがあります。
- コンデンサに過度の振動・圧力などを加えないでください。
- 万一、コンデンサの使用中に発煙、発火及び悪臭が生じた場合、速やかに課電を停止してください。

## その他

- カタログ記載の仕様などに関しては、予告無く変更する場合がありますので、予めご了承ください。
- ご使用の際には、最新の仕様書をご用命の上、内容のご確認をお願い致します。仕様書をご確認されることなく、万一掲載製品の使用機器等に瑕疵が生じても、当社はその責を負いません。  
カタログ記載の用途以外にご使用の場合は、最適なコンデンサをご使用頂くため当社にご連絡ください。
- 尚、カタログ記載内容は品種、定格により多少異なりますので、詳細は仕様書によりご確認ください。ご使用前に、「JEITA RCR-2350電子機器用固定プラスチックフィルムコンデンサの使用上の注意事項ガイドライン」を必読の上、遵守してください。
- コンデンサを廃棄する場合は、法律や条例に基づいて廃棄してください。
- 本資料に記載されているデータは実験データであり、本製品の保証値ではありません。